

## 身体疾患の既往のない患者が昏迷とともに肺血栓塞栓症をきたした1例

○芳野 混<sup>1)</sup>, 奥山 光子<sup>1)</sup>, 米元 勲<sup>1)</sup>, 玉井 真一郎<sup>1)</sup>, 岩田 健<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 東京都立多摩総合医療センター 精神神経科

### 【背景】

精神科入院患者においては、長期臥床、身体拘束、向精神薬の影響などを背景に、深部静脈血栓症や肺血栓塞栓症のリスクが高いとされる。今回、身体疾患の既往のない患者が昏迷を呈し、mECT 導入前の検査で肺血栓塞栓症が判明した症例を報告する。

症例報告に際して、患者から同意を取得し、個人情報保護に十分配慮した。

### 【症例】

57歳女性。X-1年12月に不倫がばれた時期と同時期より幻聴、思考吹入がみられた。X年3月上旬に幻聴に左右された状態で、自殺企図による自動車事故を起こした。自動車事故の数週間後より臥床時間が増加していた。入院1週間前頃からは、食事は摂取できているが食事以外では常に臥床している状態であった。X年4月Y-1日より声かけへの反応が乏しくなり、X年4月Y日には声かけにも反応しなくなつたため当院救急外来を受診した。体温が37.1度と微熱を認めたが、血液検査、生理検査、画像検査で身体的疾患は否定的であり当科受診に至った。当科外来でのジアゼパムの経静脈投与で一時的に覚醒がみられたことから昏迷の診断として当科入院とした。

入院後はジアゼパムの経静脈投与で治療開始したが、改善せず入院後4日目に胃管挿入の上、ロラゼパム3mgの投与を開始した。その後も改善見られなかつたためmECTの適応も考慮し mECT の術前検査として血液検査を行つた。その際に D-dimer が  $52.9 \mu\text{g/mL}$  と高値であったため肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症の精査目的に造影 CT を実施した。造影 CT では両肺動脈本幹から各葉枝の中枢側に血栓があり、右大腿や両下肢の静脈に広範な血栓が見られたため肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症の診断となり当院循環器内科によって加療された。

その後ロラゼパム增量に伴い昏迷は解除された。

### 【考察】

昏迷患者であれば身体疾患の有無に関わらず肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症を念頭に検査を実施すべきであると考える。